

幕末明治 ふる里の物産振興（柿原台地の茶）

「我十楽之郷素種以茶 而園地纔不過數頃 採摘蒸焙不得其法故其製亦粗惡耳 森川清次郎者丹後布袋村人也 自少潛思于製茶学于宇治十年 遂得其妙焉後有故客此 授士人以製茶之法 凡十有九年是以培植年增製法月精行 將配美名于宇治 而其間又遊于加賀以広其法 森川氏之於製茶可謂勤矣 惜哉明治四年十二月病没於此同業者相謀勒于石表其績云」

製茶場碑 明治十三年（一八八〇）記

金津の製茶産業は天保十二年（一八四一）、宇治の茶職人森川清次郎が山十楽の村人に技術伝授したことにより始まりました。その後、福井藩の産業振興策により柿原台地一帯に茶畑が広がりました。やがて日本は黒船来航、開国、攘夷討幕の嵐、徳川幕府の崩壊へと激動の道を歩みます。福井藩もまた、徳川一門ゆえに、聡明、果敢な藩主ゆえに時代の激流に巻き込まれました。激動の幕末、福井藩の運命に金津茶も無関係ではありませんでした。碑文を解説しながら、幕末福井藩の歴史と、金津茶の黎明期を紹介します。

・日 時 七月二十九日（日） 十三時三十分～

・場 所 市民文化研修センター（イコッサ）大ホール

・講 師 長谷川 勲（あわらし文化財保護委員）

・問い合わせ あわらし市郷土歴史資料館 TEL 0776（73）5158



製茶場碑（山十楽）